



9月号

学校だより

令和元年 8月 27日

さいたま市立植竹小学校

〒331-0813 さいたま市北区植竹町2-1

TEL 048-663-7627

FAX 048-663-9885

E-mail uetake-e@saitama-city.ed.jp

学校教育目標 ○すすんでまなぶ子 ○たすけあう子 ○げんきな子

児童数 741名

見沼通船堀を見学して

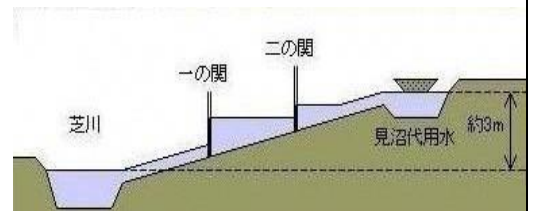
校長 関根 正佳



長い夏休みが終わり、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。今年も暑さの厳しい夏でしたが、登校時のあいさつがとても元気で、楽しい夏休みを過ごした様子が伝わってきました。保護者の皆様はお子さんの健康管理に何かと気を遣われたことと思います。また、交通事故防止や不審者から身を守ることなど、外出に際しても御心配をいただいたことと思います。幸い、保護者・地域の方々の御協力の結果、大きな事件・事故もなく本日、始業式を迎えることができました。厚く御礼申し上げます。

昨年の夏に、埼玉県東秩父村和紙の里「ふるさと文化伝修館」に展示されている「青い目の人形」を見学し、9月の学校だよりで紹介しました。今年は、再開された国指定史跡の見沼通船堀の開門（こうもん）開閉実演を見学することができました。パナマ運河より180年も前の1731年に開通した開門式運河（本流と用水の水位差がある場合に開門を使って調整しながら通船させるもの）です。

【享保16年（1731年）に開通した、見沼代用水路東縁及び西縁と芝川を結ぶ総延長約1,040メートルの開門式運河です。用水路と芝川の水位差が3メートルもあったため、途中それぞれ2箇所を開を設け、水位を調整して船を通していました。通船堀の開通により、見沼で取れた米などの農産物が江戸に運ばれ、江戸からは肥料や荒物が水上交通によりもたらされました。昭和初期にはその役割を終えましたが、近世の土木技術、流通経済を考える上で貴重なものです。・・・さいたま市ホームページ文化財紹介 見沼通船堀より】



当日は、開閉実演と「見沼通船舟歌」など昔の様子を再現しようと多くの方が協力し、2回に分けて実演されていました。先人たちの技術と知恵に感心させられると共に、その時代に少しでもタイムスリップすることができました。

この通船堀を作ったのは、植竹小学校の学区の東側を流れている見沼代用水を作った「井沢 弥惣兵衛」（いざわ やそべえ）です。見沼代用水の東縁、西縁を作り排水のための芝川を作ること、見沼を沼地から多くの水田に変えた人物です。実は、4年生の社会科の単元「見沼の開発」で学習する教材です。子どもたちは、たった6か月で作った見沼代用水や開門式運河の通船堀を通して、昔の人々がどのようにして、米がたくさんとれる田を開いていったのかを学習します。学習を進めていくと、子どもたちには知りたいことがたくさん出てきます。例えば、見沼代用水の水は、どこからきているのか。（利根川から取り入れる。）上流の見沼用水と他の川が交差している場所はどうなっているのか。（ふせこし：川の底より下に水路を作って水をくぐらせる・かけとい：川の上に橋をかけ水を流す。）等々。調べたことから新たな疑問を持つことで、さらに学習は深まっていきます。身近な地域教材を活かして、先人たちの技術や知恵に触れてほしいと思います。

一番長い2学期では、様々な行事が行われます。充実した学期になるよう職員一丸となって取り組んでまいります。引き続き保護者・地域の皆様方の温かい御支援・御協力をお願いいたします。